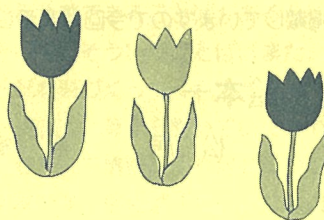
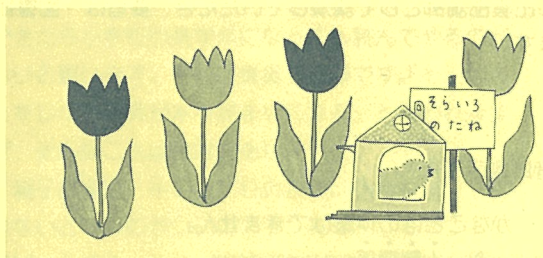


図書館たより

号数 第59号
発行日 昭和58年2月21日
編集 島根県立図書館
発行 松江市内中原町52
TEL (0852) 22-5725
印刷 渡部印刷株式会社



「そらいろのたね」より

猪年によせて

島根大学図書館長

大 氏 正 己

来年（昭和58年）は十二支の亥年となる。年末にそんなことを考えて、30数年前に個人的にも独乙語を習っていた、加茂儀一先生の著書『家畜文化史』のことを想い出した。先生の著書はどれも数多くの文献の上に立つ大著であり、その論旨はどれも整然としている。先生はすでに故人となられたが、最後の公職は小樽商科大学長であったと記憶する。では先生の書かれた、家畜文化史の中から豚に関する章を要約して、猪と豚の関係を紹介してみよう。豚が猪の子孫であることは今日、学問上の常識の範囲に属している。家畜化の歴史の中で、豚ほど祖先の荒々しい性質を捨て、人間に従属した生活をする動物はない。それでは豚の祖先はどのような猪から馴化されたのであろうか。豚の系統を明らかにする際、重要なことはその歯列である。今日の家畜としての豚は、いまだに第3紀始新世の哺乳類の原始的歯列を完全に持ち続け、上下に各々6個の切歯、左右両側に各々1個の犬歯と7個の臼歯、全部で44個の歯数を持っている。つまり、豚の祖先として考えられるのはこの44の歯数を持つ猪に限られることになる。更に、頭蓋骨や体内外の形態が豚と密接な関係を持つものを探してみると、アジアの頸帯猪（*Sus vittatus*）とヨーロッパの野猪（*Sus scrofa*）の2種が挙ってくる。両者は頭蓋骨の点で異なり、ヨーロッパ型のものは全体が長く、

特に鼻骨と涙骨が長く頭蓋が低い。一方、アジア型のものでは全体が短く、ヨーロッパ型と較べ鼻骨や涙骨が短い。この涙骨の短縮は豚では一層著しく、家畜化への顕著な結果とみることができる。この点から、ヨーロッパ型の方が古い形態を持ち、アジア型のは進んだ形態といえる。

体色のちがいは、ヨーロッパ型では夏毛は黒褐色、冬毛は暗黄褐色となり単色である。アジア型では、多くは黒味の強い暗褐色の剛毛を持ち、頬から頸にかけ白い線条が走っている。この線条は幼猪の時代の名残りで、ヨーロッパ型のものでは幼時のみ見られる。

生息の分布は、アジア型の方が広く、東アジア、南アジア、前アジア、一説によると北アフリカや南ヨーロッパにまで及ぶ。この南アジアから北アフリカやスイスに進出した例としてアイベックスという山羊がある。

家豚として最古の骨は、新石器時代後期に犬・羊・牛と共にスイス「水辺杵工居生活」の遺跡にみられ、泥炭層時代豚と呼ばれている。豚も他の家畜と同様に、何らかの機会に、子供が人に育てられ馴化されたものと考えられる。猪の子は容易に人に馴れる性質をもつ。中国では豚が最古の家畜で西紀前2,200年より前に馴化されたといわれる。この中国の豚の中、耳の垂れた種が18世紀になって英国に輸入され、土着の豚と交配した結果19世紀に入って優秀な品種の改良種が英国で作られ世界に広がった。我が国へは戦国時代、長崎地方に渡来した中国人が持ち込み、その後、鹿児島で日本人が始めて蕃殖させている。

（昭和57年12月執筆）

親子読書講演会開催

..... その記録から

当館では、昨年に引き続き本年度も親子読書をテーマに松江市、大東町、金城町、桜江町、益田市において昨秋講演会を催しました。講師は、福音館書店社長、松居直、幼児と文学研究所長、佐藤宗夫の両氏で、それぞれの立場から「親子のふれあい」についての示唆に富んだ話があり盛会のうちに終えることができました。人間形成に欠くことのできない読書は、幼少期に習慣づけることが最も重要であるといわれています。親子読書という素晴らしい読書活動に、家庭で、図書館で、学校でそれぞれの立場で積極的にとりこんでいただくため、講演の要旨を紹介します。佐藤氏は昨年も出雲部講師として講演していただき、要旨は「図書館だより第54号」に掲載していますので今回は割愛します。

— 家庭教育と絵本 —

松 居 直（福音館書店社長）

1. 家庭教育の柱

① ことば

教育が成り立つ重要な要素は2つあります。1つはことばです。教育はことばをぬきにしてはできません。先生のことばに耳をかたむけて聞く力が、子供に育っているかということを問いかけたいのです。話を聞かない子供は教育ができないのです。ことばが伝わらなければどんなにすぐれた教育者でもなかなか子供の心を育てることはできません。子供にことばが聞けるような力を身につけさせるのは、父親と母親の仕事です。責任です。ことに赤ちゃんのころからの父親と母親が何を語ったかということにかかわりがあります。

母親は、赤ちゃんを目の前にして言語教育をしようと考えてはいません。でも、無言で子供を育てている母親もいません。思いをこめて心から出てくることばを赤ちゃんに常に語りかけています。ことばは人間の心を伝えるから、赤ちゃんはだんだん人間の心を養っていくのです。肉体的には母乳を、精神的には母親のことばをまるごと飲みこんで育ってきたのです。

子供のことは、親から受け継がれた伝承の賜です。「わらべうた」「昔話」のことをいう前に私たちのことばは親ゆずりであることを考えたいものです。それが大切なのです。

親は子供たちが豊かな人間になってほしいと願っています。豊かな人間とは豊かなことばをもっている人です。なぜならば、人間が人間であるしるしは、ことばをもっているからです。一番基本的なことは、子どもが耳からどれほど豊かなことばの体験をしたかということです。子供の周囲にいる大人が豊かなことばで語りかけなければなりません。子供を育てている人が貧しいことばで語りかけていたのでは豊

かなことばの体験はできません。

② 人間関係

家庭教育のもう一つの柱は人間関係です。教育は人間関係の豊かさをぬきにしては成り立ちません。特に1対1の人間関係です。先生と子どもの人間関係において、子供の方に豊かな人間関係をもつ力があるかと問いたいのです。どんなにりっぱな教育者でも子供の側にその人格を受けとめるだけの力をもっていないと教育は成り立たないのです。そういう意味で人と人との交わりを豊かにできる可能性をもたせてやりたいものです。

最近はおまかせ主義が多すぎます。幼児教育は幼稚園、学校にまかせたということはまちがいです。本質的に父親と母親がするものです。

教育の柱は、一つにはことばであり、子供が聞く力をもっているかということと、もう一つは子供が先生や友だちと豊かな人間関係をもつことができるかということとあります。絵本を幼児期から読んでやる大きな理由がそこにあります。

2. 幼児と絵本

① 騒音からの脱却

近ごろの子供の生活を見ますと、家庭で一番子供に語りかけているのはテレビです。子供はテレビの前に1時間でも2時間でもすわっています。テレビはとめどなく子供に語りかけています。テレビの番組の中にほうりこまれます。一度テレビを消してごらんさい。生活の中にある音がよくわかります。湯のわく音、水の流れる音、小鳥の声、そして人間の声です。相手の声がまともに聞こえ、静かな中で人間が向かい合えるんだなあということがよくわかります。テレビをつけっ放しにしないことです。

② 絵本の読み聞かせ

子供に絵本を読んでやる時間は、親が子供に語りかける貴重な時間です。子供に本を読んでやると喜ぶし、親は子供の喜ぶ姿をみてまた喜びを感じます。子供も親も共に喜ぶところに大きな意味があります。

子供は小学校に入っても読んでやった方がいいのです。子供が字が読めるようになった時こそますます読んでやらなければなりません。父親や母親が、できれば小学校の高学年になっても読んでやるのがいいと思います。それは貴重な体験です。「そんなことをしたら子供が本を読まなくなる」と思われますが、そんなことは絶対にありません。

親子読書は、牛のよだれのように切れるようで切れないというのがいいのです。あるところまでいってぱっと切る、これは一番下の方法です。無理をしないこと、自然にやっていくこと、つまり子供に本を読んでやるということが生活の一部になっていることがよいのです。

本の中にはとてもすばらしいことばの世界があります。石

井桃子さんの本には石井さんの世界があり、松谷みよ子さんの本には松谷さんのことばの世界があります。本を読んでやることは、すばらしいことばの世界を子供たちに語り伝えることです。親がもっていないようなことばの世界が本の中にあり、それを自分の声で子供に語るということに意味があります。例えば「ちいさなねこ」は、石井桃子さんの本です。これを母親が読んでやると、お母さんが読んでくれた「ちいさなねこ」になります。父親が「てぶくろ」を読んでやると、お父さんの読んでくれた「てぶくろ」はおもしろかったと子供は思うのです。本は作者によって描かれますが、子供の心の中には読み手のことばとして入っていくのです。

ある日、中学生になった長男が、「お父さんが読んでくれた本の中で一番おもしろかったのは、『花のすきな牛だな』と言ったのです。これは三歳の時に半年ばかり読んでやった本です。私はこの本は読み手として知っており、子供は聞き手としてよく知っております。しかも、それが10年たっても心の中に強

く残っていることに感動しました。このとき、父親の存在証明を確信したのです。

絵本を読むことは語ることです。親子読書は、自分のことばで、自分の子供の目を見て、子供に心を向けている時間をもつことです。

③ 絵本と想像力

絵本のよしあしは、その絵本の中にどれだけ豊かなことば、中身のあることば、読み手や聞き手が心から共感できることばがあるかによってきまります。そして、そういうことばはまた、豊かで確かなイメージを形づくってくれます。

子供は、耳から聞いていくので、目に見えるように書かれて情景が切れ目なくつづいていくのがよい文章です。例えば「ちいさなねこ」は、平易な文章

で、ことばの通りにイメージを描いて楽しむことができます。「わらべうた」の絵本も、幼児期にたっぷり読んで聞かせたいものです。わらべうたには日本語の鋭い感覚があふれています。

また絵本の絵は、物語の世界を子供の

中につくりだすためにあるのです。表面的な絵の美しさだけに心を奪われて、物語を描ききっているかどうかを見定めることを忘れてはなりません。

子供たちが絵本を楽しんで聞けるのは、物語という目に見えない世界を、自分の心の中に見えるようにするイマジネーションの力です。想像力が豊かであれば、人間は見えないものを見ることができます。見えないものに大切なものがあります。例えば、幸せとか、平和などは見えないが、本を読めば見えてきます。

1冊の本を読んで、そこにより豊かな世界を発見するか、ほんのわずかしかくみとれないかは読み手の想像力いかんです。その出発点の重要な1つが絵本にあるわけです。読書のかぎはよい絵本の中にあります。



親子で読書を

昨年12月18日(土)、浜田市観光会館ホールで、第28回青少年読書感想文島根県コンクール小中学校の部の表彰式が行われました。

各市郡のコンクールで選ばれた小学校159・中学校78・計237編の感想文の中から、最優秀賞9編(全国コンクールに応募)優秀賞15編、優良賞75編が選ばれ表彰されました。

審査委員長三上哲哉(浜田三中学校長)先生の審査報告によると『今回の感想文は、学年の発達段階に応じて自分の持ち味を生かした発想で、自分なりの意見や感想を率直に述べ、内容も深く読みとり、それぞれ生活経験と結びつけている作品が多く、全体にレベルが向上していた。個性がキラリと光った力強い表現力もみられた。いまひとつ読む人の心を揺さぶるような迫力がほしかった』とのこと。

「智恵子抄」を読んだ感想文で最優秀賞(島根県教育委員会賞)を受賞した那賀郡旭中学校2年生の岩田裕子さんは、その喜びを次のように発表しました。

第28回青少年読書感想文島根県 コンクール受賞によせて

那賀郡旭町立旭中学校2年

岩田 裕子

読書を通して

私は今までいろいろな本を読んできました。本を読んでいると、自分を見つめることができるようになるのでは、と思います。

小学校4年生の頃から比較的良好本を読んできた私ですが、本の種類は推理小説などに片寄っていました。その後、高村光太郎の詩に出会い本当に読書に親しむことができるようになった気がします。「ぼくの前に道はない。ぼくの後には道はできる」ではじまる「道程」を何度も読み返したのは5年生のときでした。そのきびしい調子が、何となくあまいに日を過ごしていた私を反省させてくれました。

それからは詩も好んで読むようになりました。この詩人の詩ということなく、新聞や雑誌の詩にも目を向けていました。

また、読書のはばも少しずつ広がっていきました。

「走れメロス」「次郎物語」「しろばんば」「人間失格」などが印象に残っています。

詩や小説のよさは何といっても読み返すたびに受けとることが違うということです。なぜだろうかと自分なりに考えてみました。その中に映し出されるからだと思います。おもしろくないと思っていた小説に感動するようになるところに私の成長があると思います。また、小説の人物といっしょになって、行動していることもあります。そのときどきの私の心が読書によって明らかにされているのです。

2年前の私だったら「人間失格」のような闇につつまれたような物語はすぐ読むのをやめたと思います。なぜこの子はふつうの子どもが思うようなことは思わず、大人より大人びたことを感じるのか、と今、疑問に思いながら読み続けました。

こうして、1つ1つの小説の内容は違いますが、作者は何を訴えようとしているのか、どうして私はこんな気持ちになるのか、など自分の心にうつしながらか読み続けたいと思います。

これからも私は多くの本を本当に理解できるまで読み、自分の心の鏡にしたいと思います。

NEWS

●子どものつどい盛況裏に終わる。

昨年12月19日島根県立図書館集会室において「子どものつどい」が開かれた。今回は約250名の子どもたちが参加し、きり絵昔話「モチモチの木」のOHP、人形劇「わんわん物語」映画等の催しに楽しい一時を過ごした。好天に恵まれたこともあって子どもたちは1時間前から詰めかけ、会場は熱気でムンムン。終了後は「子ども室」で図書の貸出しをうける子どもも多く、大にぎわいであった。



読売新聞松江支局提供